

「恋人の鐘」の除幕を行う足利工業高校美術部の生徒たち（足利織姫神社で）



## 恋人の聖地に「愛の鐘」

足利工業高美術部生が除幕

織姫神社

縁結びの神社といわれ、恋人の聖地、日本夜景遺産にも認定されている足利織姫神社に「愛の鐘」が完成。24日には除幕式が行われ、足利市にまたひとつ「名所」が誕生した。

愛の鐘の設置は同神

社奉賛会（石井金吾会長）が3年ほど前から計画していたもので、昨年7月にNPO法人地域活性化支援センターが運営する「恋人の聖地」に、また一般社団法人夜景観光コンベンション・ビューローが運営する「日本

夜景遺産」に認定されたことから設置を決め、創業800年という茨城県の業者に鐘の製作を依頼した。

愛の鐘は同神社のつくりには似た朱塗りの上屋がかけられ、鐘をつるす台座には「愛は限りなく広いそして深い」と書かれたプレートが埋め込まれている。鐘は銅製で、高さ約40センチ、直径は約30センチ、

重さ約30キロという。

除幕式では神事に続いて、足利工業高校美術部の7人による除幕が行われると美しい鐘が現れ、出席者から大きな拍手。初鐘を担当した奉賛会副会長で愛の鐘奉納者代表の菊地義治さん（78）、裕代さん（70）夫妻を含む3組のカップルが鐘を鳴らした。